

Gerd Olofsson 博士退官記念研究集会

ヤード オロフソンさんがルンド大学を退官されることになり、彼女の熱化学・化学熱力学への貢献をたたえて研究会が行われた。ルンドはスウェーデンの南端近くに位置する小さい町で、中世初期に建てられた大きい教会と 300 年を越える歴史をもつルンド大学がある。この大学のケミカルセンターは大学付置研究所ではなく、ルンドのあらゆる化学関係の教育と研究を担う言わばルンド大学化学科のような存在である。巨大なケミカルセンターに以前は熱化学部門があったが、今は物理化学 1 に統合され、ヤードさんはそこで界面活性剤やミセル形成を研究しておられる。南スウェーデンスコネ地方は豊かな農業地帯で、コロイドは食品産業の基礎としてたいへん重要なのである。

研究会は 2001 年 10 月 13 日に Workshop on Current Applications in Thermochemistry. A one-day symposium in honor of Gerd Olofsson on the occasion of her retirement としてケミカルセンターで行われた。インゲマルワドソー教授は挨拶で、ヤードさんのケミカルセンターへの貢献を称え、また IUPAC で彼女が果たした貴重な役割を賞賛した。つづいて午前中に 4 件、午後 5 件の講演があった。その内容はリン脂質、ドナー・アクセプター分子、生体高分子、物性への重水素効果、酵素反応、微生物の熱測定、医薬品開発、微粉医薬、セメントの水和であった。最後の講演（セメントの固化熱）は異色であるが、セメント製造工程のチェックや最適使用条件の決定に熱測定は非常に有効な方法であって、標準化されているとのことであった。研究会のあとルンドグランドホテルで夕食会があった。ここでは皆くつろいで、昔の思い出話をする世代ともっと若い世代があった。ディナーのおわりころ、関先生、菅先生、徂徠先生からことづかった手紙と記念品がインゲマルによってヤードさんに手渡された。インゲマルによるこの紹介で昔からの関係が参加者によく伝わったと思う。

ヤード オロフソンさんは 1991 年に来日され、熱測定討論会（京都平安会館）で特別講演された。「水および非水溶媒中における両親媒性物質の会合の熱測定」として熱測定誌第 19 巻に寄稿もされた。ミセル形成臨界濃度付近の見事な熱測定結果を記憶される方も多いと思う。ルンドにダグハマーショルドと名についた通りがある。ハマーショルドは 1950 年代に国連の基礎を築いたスウェーデンの政治家である。小国スウェーデンから国際機関で重要な役割を果たす人が多く出ているが、ヤードさんの IUPAC における活動もそのように見ることができる。IUPAC 物理化学部門の正委員として永く活動された。研究会に IUPAC の関係では Gus Somsen さんも来ておられた。日本からは近畿大学の木村隆良先生が、ちょうどその直前に

コロイド関係の学会がルンドで行われるのにあわせて出席された。

阪大からはかつて崎山稔先生がルンドに滞在して燃焼熱測定をされた。その後1978年に筆者は家族とともにルンドに8ヶ月間滞在し、熱化学部門のスティグ・スンナー教授のもとでポスドクをさせていただいた。そのときモンソンさんやインゲマール、ヤードさんにもたいへんお世話になった。今回ヤードさんが退官されるにあたって、ワドソー教授から記念研究会に出席するよう求められたとき、かつてのご厚意にあらためて感謝し、23年前のことを憶えてもらったことをうれしく感じて喜んで参加した。なお Gerd をヤードと読むのは、スウェーデン語で G は「が行」または「や行」を表わすからである。また北欧ではたいていの名前が短くなる。ラルス（ローレンス）、ニルス（ニコラス）、ベンクト（ベネディクト）、ペール（ピーター）、ヤード（ガートルード）などである。

（松尾隆祐）